



野球で福島を元気に!
繋げよう絆・広げよう地域の輪

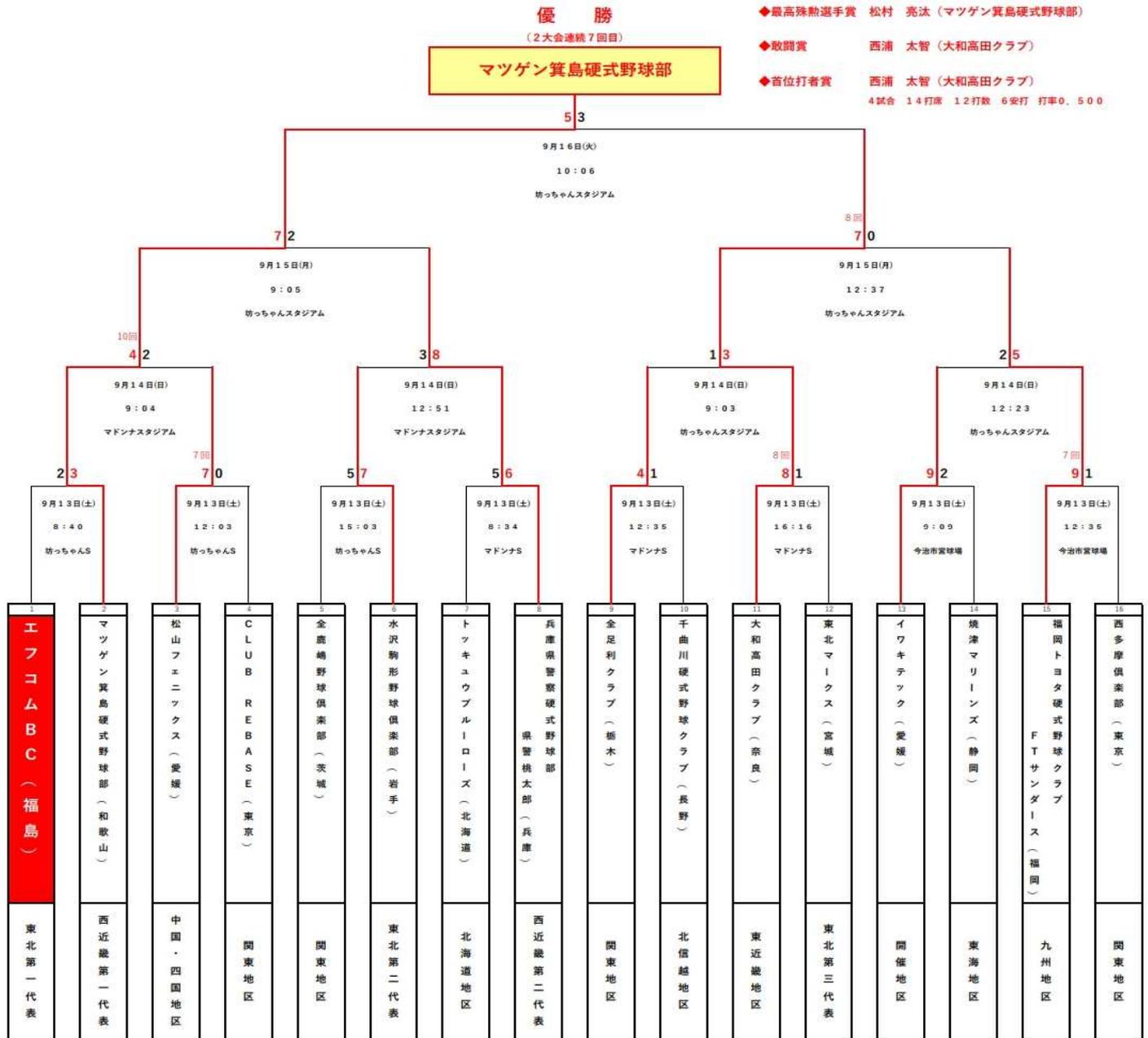


エフコムベースボールクラブ

第49回 全日本クラブ野球選手権大会

◇試合結果◇

一回戦 V S マツゲン箕島硬式野球部 (2対3) 惜敗



※ユニバーサルデザインフォント「みんなの文字」を使用しております。



野球で福島を元気に!
繋げよう絆・広げよう地域の輪



エフコムベースボールクラブ

エフコムBC 中島 周作 監督兼内野手、主将の八百板 飛馬 外野手と
阿部 義浩 部長より本大会のコメントをいただきました!

中島 周作 監督兼内野手

日頃から、ご支援とご声援感謝いたします。全日本クラブ選手権が開催され、松山まで多くの方々に応援いただき本当にありがとうございました。残念ながら初戦で惜敗となりましたが、選手と応援が一丸となった最高の試合だったと思います。結果的に対戦相手のマツゲン箕島さんが優勝されたので、とても悔しい気持ちと一方で嬉しい気持ちが湧いてきました。チームとして本気で日本一を目指した大会でした。目標達成までの距離を感じることが出来た大会になったと思います。チームとして悔しい経験を、これからの練習等に活かして参ります。今後とも応援の程よろしくお願い致します。

八百板 飛馬 外野手 (主将)

全日本クラブ選手権も熱い応援ありがとうございました。初戦敗退という形で幕を閉じました。悔しい一言に尽きます。私たちは日本一になる事だけを目標に戦ってきました。悔し涙を流したり、結果が出ずに悩んだり日々みんなの努力は並大抵のことではありません。キャプテンとしてみんなに感謝を伝えたいです。

また来年日本一の挑戦が出来ること、なにが足りないのかチーム全員で考えて練習できることが楽しみです。このチームで来年も日本一を目指しましょう!

阿部 義浩 部長

前大会の悔し涙から1年、メンバーが日々努力を重ねてまいりました。その成果としてクラブ二次予選や一関市長旗でも前年以上の成績を残し、都市対抗の東北大会でも実業団を相手に善戦を繰り広げたことはご記憶のとおりです。満を持して臨んだ第49回全日本クラブ野球選手権大会、相手は奇しくもマツゲン箕島硬式野球部。ここでも今持てる力を発揮してエフコムBCの成長を示すことができました。今回の結果はあらためて日本一に相応しいチームになるためのエールと捉えます。更なる進化を遂げ来年こそ全国制覇の栄冠を勝ち取り、いつも応援をいただいている皆様と喜びを分かち合いたいです。

引き続き、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

遠くまで応援に来ていただきありがとうございました!
また来年に向けて一から頑張ってまいります!!



※ユニバーサルデザインフォント「みんなの文字」を使用しております。



野球で福島を元気に!
繋げよう絆・広げよう地域の輪



NEWS



エフコムベースボールクラブ

一回戦 VS マツゲン箕島硬式野球部

昨年は準優勝とあと一歩のところまで悔し涙を流したこの大会。初戦の相手は何の因果か前回決勝で戦ったマツゲン箕島硬式野球部。「同じ相手に二度は負けない」と全員で意気込み迎えた一戦。中盤まではエフコムペースで試合が進んだ。2回、先頭の伊藤海斗が2ベースで出塁すると、伊藤琉晟がヒットで繋ぎ、続く高野がセンターへ犠牲フライを打ち先制する。6回には3番松嶋がバックスクリーン横へと運ぶ特大の一発で2対0とリードを広げた。

先発の山形は本調子でないものの丁寧にコーナーを突きながら的を絞らせない投球で6回までスコアボードに0を並べた。しかし7回、1アウトからヒットと死球、守備の乱れで満塁のピンチを迎え、ゲッツー崩れの際に1点、その後2、3塁から3番打者の打球がレフト前への2点タイムリーとなった。ここでエフコムは小口へと投手をスイッチ。7回途中まで3失点と粘投した山形にはスタンドから大きな拍手が送られた。小口は次打者をしっかりと打ち取り味方の援護を待つ。

打線は8回、9回とスコアリングポジションにランナーを進めたがあと一本が出ず、相手を大きく上回る11安打を放つも2対3で再び苦渋を味わうことになった。

昨年の借りは返せなかったが、メンバーがこの一年取り組んできた成果は垣間見えた。次こそは日本一への新たな糧としたい。

山形 胤舜 選手 <先発>

投手/出身校：弘前学院聖愛高校 ⇒ 青森大学



松嶋 拓郎 選手

内野手/出身校：文星芸大付属高校 ⇒ 仙台大学



伊藤 海斗 選手

外野手/出身校：酒田南高校



小口 優太郎 選手 <リリーフ>

投手/出身校：東海大浦安高校 ⇒ 東海大学



ご声援ありがとうございました！！

※ユニバーサルデザインフォント「みんなの文字」を使用しております。